

2011年3月期 第1四半期決算 IR 説明会(2010/7/30 開催)

質疑応答内容

- Q: 営業外収支が鉄鋼関連会社やバイオエタノール生産会社の持分法投資利益の増加で年間▲140億円の計画に対し42億円のプラスと順調だが、上振れの可能性は？
- A: 鉄鋼関連会社については中国の鉄鋼需要とも関連しているため、堅めに見た方がいいと考えている。また営業外収支は為替の要因もあるため、現段階では保守的に見ている。
- Q: 新規投融資の状況は？
- A: 第1四半期のキャッシュベースの実績は約50億円だが、交渉中の案件が多くあり、2010年度計画900億円実行の確率は高いと考えている。
- Q: ロシア、ベネズエラにおける自動車事業の状況は？
- A: ロシアは当初の見通しより進捗が良く、わずかではあるが販売台数が計画より増える見込み。収益面では上期に旧車種の販売がメインのため赤字となり、新車種の販売がメインとなる下期でリカバリーしていく計画だが、年間では赤字となる計画としている。
- ベネズエラは労務問題を要因として赤字の計画。現在は沈静化し操業は安定化しつつあるが、まだ予断を許さない状況にあると見ている。
- Q: 肥料事業以外の生活産業部門の足元の状況は？
- A: 食料資源本部は肥料事業を中心に好調に推移。物資・繊維本部の繊維事業はOEM事業が底堅く、子会社のアパレル事業については新たなブランド戦略を構築している過程で、この2つの事業を育成し、収益を安定させていく。物資事業は底堅い。林産資源・不動産本部の原木、合板については需要の回復はまだ十分ではないが、価格は底を打ち、収益に貢献しているが、不動産については今年度から新規案件を再開したところで、暫くは厳しい状況が続くだろう。
- Q: これまでに投資してきたエネルギー、金属資源の権益で今後新たに収益貢献が見込まれるものは？
- A: 今年の3月に出資したカナダの銅鉱山が第2四半期から収益貢献し始める。また石炭についても6月に生産を開始した炭鉱があるため、下期から収益貢献する。

以上